

産業拠点を発揚し、南科の更なる発展を期す

オプトエレクトロニクス産業

2006年まで、既に54社の企業が正式に進駐し、高等基幹製品(液晶、配向膜、偏光板、冷陰極蛍光灯、ガラス基板、カラーフィルター、バックライトモジュール、駆動IC、集光レンズ等)から、パネル、LCD-TVまで、各種製品が幅広く製造されている。また、国際的に知名度の高い日本のチッソ、住友化学、アメリカのコーニング社、3M等の大企業が次々に進駐し、更に国内パネル企業の奇美電子が生産ラインの拡大を続ける中、南科は台湾フラットディスプレイ産業の世界市場における先駆的地位の確立を目指し、引き続き重要な役割を果たしている。



南科のオプトエレクトロニクス産業は順調に成長を続け、この度、大億グループと日本企業スタンレー(Stanley)が共同投資するバックライトモジュール企業・大億科技が、更に17.5億元を出資し、台湾南科第2工場を建設した。(3月8日)



2006年5月24日、日本企業大福グループの投資による「台湾大福ハイテック設備株式会社」が南科に設立され、園區において、無菌室オートメーショントランスポートシステムを生産する最初の企業となった。

精密機械産業

2006年までに、合わせて56社の精密機械企業が南科に進駐し、将来「南科FPD設備製造統合センター」の設置を目指している。センターの主な任務は国外の設備企業による台湾での設備製造を推進すると同時に国外の設備企業と国内企業の協力促進のための窓口を設置することである。そして関連産業の技術向上と国内設備生産率の向上を図る。

集積回路産業

2006年までに、IC設計、半導体ウェハー専攻、パッケージテスト、半導体設備等の25社の企業が南科に入り、完全な供給チェーンを構築している。2006年度、普邦、必達の2社が新たに進駐した。

また、台積電は、既に8インチ工場、ツインタワー構造設計の12インチウェハー工場を南科に設立しているが、2006年6月に第三の12インチウェハー半導体工場の建設を着工した。

聯電は2006年、南科に先進製造プロセス技術開発センターを設け、2007年3月末に完成する予定であり、合わせて第二の12インチウェハー工場の建設に着工する。全ての工事は2007末に完成予定で、2008年の第一季から設備の移転を始める。



2006年5月20日、「港香蘭應用生技株式会社南科工場」の建設工事が着工した。将来、当工場では濃縮漢方薬製造の枠を超え、治療効果の高いバイオ薬品及び高級医療保健薬品を主に製造する計画である。

バイオテクノロジー産業

2006年までに、バイオテクノロジー医薬、バイオチップ、バイオ医療器材、試薬、バイオテクノロジー保健食品及び農業バイオテクノロジー等の31社のバイオテクノロジー産業企業が南科に進出している。

医療器材は政府の2015年経済発展展望の中の新興産業に定められており、南科管理局と財団法人金属工業研究開発センターが協力して、南科園區周辺の医学院（例えば、成功大学医学院、奇美病院、高雄長庚病院、高雄榮総病院、義大病院等）と協力し、高雄園區にバイオ医療器材産業特区を設立する計画を進めている。初期段階においては高雄地域の有する先進の精密加工業と結合し、内視鏡や歯科手術器材等の精密手術器械の発展に力を入れる。将来的には、地元の医療研究開発資源及び園區の優れた電子半導体産業、通信産業を結合し、遠距離医療器材や検査器材の開発を進める。2006年、王纏科技株式会社は園區に人工歯根、インプラント器械等の研究開発、製造を導入し、高雄園區の医療器材産業特区は、台湾における医療器材産業の一大拠点を形成しつつある。

高雄園區の急速な成長

産業界から高い期待を寄せられている南科高雄園區において、2006年4月15日、奇美電子株式会社が正式に工場建設に着工した。これは高雄園區発展の象徴的意義を持つものである。奇美電子は4,620億円を投資し、3つの次世代工場を建設する予定であり、主に大型液晶テレビ(LCD TV)を生産する計画である。工場の完成に伴い、高雄園區に3,200人分の就業機会が生まれると同時に、更に業界に新たな投資の波が起きることが予想される。

実際、高雄園區は交通が便利であり、区画計画も整い、優れた条件がそろっているばかりでなく、政府も南北のバランスある発展を重視し、南科が新たな産業拠点として発展するよう力を入れている。

奇美電子の外、2006年の高雄園區の発展を振り返ると各産業の均衡した投資が見られ、発展の基礎が確実に構築されていることが分かる。まず、2006年新春の1月16日、台湾精微材料株式会社が工場建設に着工し、続いて5月11日、科材料株式会社が工事を終え、開幕パーティーを行った。更に、10月には双星が園區に進駐し、10月16日には、長亨精密科技高科支社が工事を始めた。この会社は飛行機エンジン部品や関連金具を専門に製造する長亨精密グループが新たに高雄園區に設立した会社であり、7億円の資金を投入し、約1万2千坪の広大な敷地に2つの専門製造工場を建設する。翌10月17日には、王纏科技株式会社が工事を始め、バイオテクノロジー医療器材産業特区に初めて進駐した企業となった。高雄園區がバイオテクノロジーと医療器材の発展に力を入れている現在、王纏科技はインプラント器械や血液分析器を主に生産し、今後の発展の潜在力に期待が集まっている。



長亨精密科技株式会社高雄園區起工式典(10月16日)